

めいげつき (重要文化財) 明月記

藤原定家自筆

治承4・5年 一軸  
縦 29cm 横 10m53cm

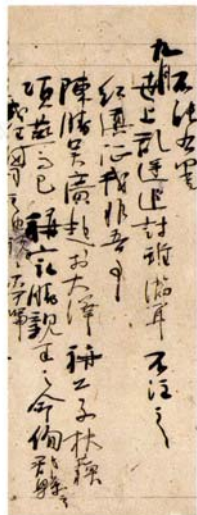
日々の出来事を書き綴る日記。だが、それを書き続けることの難しさは、多くの人の知るところである。しかし、

ここに平安末期から鎌倉時代にかけて実に六十年近くも書き続けられた日記がある。公家で歌人の藤原定家（一一六二～一二四一）が記した『明月記』である。

定家は、勅撰八代集の一つ「千載和歌集」を編んだ歌人藤原俊成の子。幼少より漢学・和歌等に優れ、後に勅撰集「新古今和歌集」の撰者にも選ばれた。また、古今の秀歌百首を集めた「小倉百人一首」の撰集や、古典籍類の書

写・校勘（くらべ考えること）など、後の世に多くの功績を残している。

『明月記』は、途中欠落があるものの現在、治承四年（一一八〇）定家十九歳から、嘉禎元年（一二三五）七十四歳までの五十六年間の記事が知られている。当時の公家の日記はほとんどが朝廷の会議や儀式の記録であったが、『明月記』は定家の生きた時代の記録であり、源平の争乱から鎌倉幕府成立・承久の乱といった激動の時代の都の様子や公家の生活、それに対する定家の思いが記され、当時を伝え



る資料としての価値は大きい。掲出本は、治承四年二月から同五年十二月に亘る卷子本一卷。その筆跡から定家七十七歳頃に浄書し直したものとされる。治承四年は源平争乱の端緒となる治承の乱が勃発、「世上乱逆云々」の記述には世上の争乱に我は関せずとの定家の思いが込められている。なお、天理図書館は、他に安貞元年秋の『明月記』（重文）も所蔵している。

（天理図書館 阿波谷伸子）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>  
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）  
 ただし9月28日は休み  
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）